

[発行日]=2000年4月18日

[本文]

最初それを見たときは、なんとも大胆なデザインのCDだなど目を見張った。ジャケットではなく、CD自体に切り込みが入っているのである。北欧には、確かに機能的で鋭いセンスのデザインの物が多いけれど、楽しい物や奇抜な物も案外ある。

しかし、これは北欧の物ではない。実は日本のCDなのである。エン嬢^ (イェンイェン) はにこにこしながら、これは本物の印 (しるし) ですよと言う。

それはデザインなどではなく、中国の税関で摘発され、切り込みを入れられた物らしい。しかし、それがなぜ、市場に出回っているのだろう？ 切り込みのせいで、最後の一、二曲は音が跳ぶ。それ故に海賊版と同じ値段 (約五十円) で売られているという。

彼女は中国の西安から来た留学生である。ウプサラの近くの国民学校で、スウェーデン語を勉強している。そこには彼女を含めて九人の中国人留学生がいる。そのほかにはチェコ、オーストリア、ギリシャ、ロシア、日本から各一人。半数以上が中国人である。

月曜日から金曜日まで、一日約四時間みっちりスウェーデン語を仕込まれている。既に一年近くなるわけだが、その割には会話がいまひとつである。

その学校には、ほかにも色々なコースがあり、たくさんのスウェーデン人の生徒がいるのだが、中国人留学生は彼ら同士で固まって、スウェーデン人生徒との会話はあまりないらしい。

「食事のときなどに、隣の席の人と話すということはあるでしょうか？」と尋ねると、中国人は食堂で食事していないと言う。食事が口に合わないという理由らしいが、でもそれは理由のすべてではない。昼休みは四十五分しかない。中国の人たちの料理の手早いことは確かだが、口に合わないという理由だけなら、彼ら全員が食堂で食事しない、ということにはならないだろう。経済的理由が大きいと思う。

中国では、かなりの特権階級の子弟たちなのだろうけれど、約六百円の食事は、彼らには痛い金額にちがいない。

部屋の中をつぶさに見せてもらった。電気炊飯器やCDラジカセをはじめ、かなりの調度品がある。全部、中国製である。「中国で買うと安いといっても、スウェーデンまでの送料がかかるから、あまりメリットがないんじゃないですか？」と聞くと、それは全部、手で持って運びましたと言う。私は一瞬、あつ

けにとられてしまった。二十歳そこそこの女の子が、五、六個の大きな荷物を抱えて運ぶ光景を想像したからである。

しかし、それは彼らにしてみれば、ごく当たり前のことなのではないかと思いついた。私たちはいつの間にか、途上国魂のようなものを失ってしまったのだらう。

来年の秋から、EU（欧州連合）圏外の留学生は、寄宿生の場合、授業料込みで月に八千クローネ（約十二万円）払わなくてはならなくなるらしい。これまでの三倍である。

しかし、彼らはどこか良いところを見つけてするりと入り込んでゆくにちがいない。軟弱ではないのである。